

普及技術

分類名〔飼料作物〕

飼料用トウモロコシ奨励品種「タカネスター」

畜産試験場

1 取り上げた理由

飼料用トウモロコシは倒伏に強く、抗病性を兼ね備え、消化性が高く、高栄養の品種が生産現場から望まれている。畜産試験場において品種の検定試験を行った結果、成績優秀であった品種を奨励品種としたので普及技術とする。

2 普及技術

- 1) 当試験場におけるRM（出芽から黄熟期までの日数）は117日となった（育種場は113日）。早晩生は中生である。
- 2) 発芽の良否は良い（表1）。
- 3) 稈長は標準品種より長いものの、着雌穂高の稈長に対する割合は47.2%と標準品種53.7%より低く、耐倒伏性に優れる（表1）。
- 4) 耐病性は標準品種（セシリア）と比較してすす紋病、紋枯病、ごま葉枯れ病に強く、根腐病にも耐性がある（表2）。
- 5) 乾物収量は標準品種より優れる（表3、図1）。

3 利活用の留意点

- 1) 茎葉の消化性が優れ、10a当たりのTDN収量はセシリアより高い（表4）。
- 2) 栽植密度は10a当たり7,000本前後とする。

（問い合わせ先：畜産試験場 草地飼料部 電話0229-72-3101）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

飼料作物・牧草適応品種の選定 (1)飼料用トウモロコシ (昭和57年度～)

2) 参考データ

播種月日：平成15年5月12日，平成16年5月12日，平成17年5月12日，平成20年5月8日
畦間75cm×株間19cm

収穫月日：(タカネスター) 平成15年9月17日，平成16年9月9日，平成17年9月14日，平成20年9月11日
(セシリア) 平成15年9月24日，平成16年9月9日，平成17年9月12日，平成20年9月11日

表1 生育特性(標準品種:パイオニア115日 セシリア) (H15-17,20の平均値)

品種名	発芽良否 (1-9)(注1)	初期生育 (1-9)(注1)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏割合 (%)	折損割合 (%)
タカネスター	8.3	5.6	269	127	0.2	4.4
セシリア(標準)	7.7	5.7	259	139	0.5	3.2

(注1)出芽の良否，初期生育は極良を9，中を5，極不良を1とする評点法。

表2 病害程度(標準品種:パイオニア115日 セシリア) (H15-17,20の平均値)

品種名	ごま葉枯病 (1-9)(注1)	すす紋病 (1-9)(注1)	黒穂病 (%)(注2)	根腐病 (%)(注2)	紋枯病 (%)(注2)
タカネスター	1.8	1.6	0.1	8.4	2.5
セシリア(標準)	2.8	2.0	0.0	12.6	4.0

(注1)被害程度と被害面積に応じて無を1，甚を9とする。(注2)罹病個体の全個体に対する割合。

表3 乾物収量

品種名	年	乾物収量/10a	乾物雌穂割合(%)
タカネスター	平成15年	1,545(136)	35.0
	平成16年	2,214(105)	50.4
	平成17年	2,266(121)	37.5
	平成20年	1,664(96)	52.9
セシリア (標準品種)	平成15年	1,367(100)	48.6
	平成16年	1,471(100)	54.5
	平成17年	1,873(100)	45.5
	平成20年	1,738(100)	53.8

表4 TDN含量及びTDN収量の推定値

	茎葉TDN含量(%) ※1	ホールクroppTDN含量(%) ※1	TDN収量(kg/10a) ※2
タカネスター	48.9	66.8	1,261
セシリア	45.8	65.8	1,206

※1 長野県中信農業試験場畑作育種部試験値(平成13~16)

※2 関東・東山の7試験場16試験の平均値(平成13~16)

茎葉は近赤外分析値から，雌穂は子実重割合からの推定

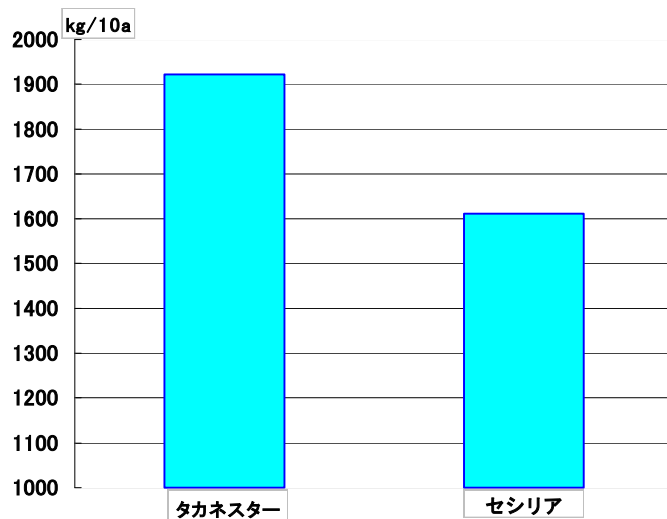


図1 乾物収量(H15~17,20の平均)

3) 発表論文等 なし